

東北文教大学・東北文教大学短期大学部 図書館報

発行 東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館

〒990-2316 山形市片谷地515 ☎023-688-7544

目次

- 図書館と私…………… 1
- 教員の本棚から…………… 3
- 私のおすすめ本…………… 3
- 令和5年度 図書館報告 …… 4

図書館と私

人間関係学科 教授 黒 沢 晶 子

その情景は、今でも時折、不思議と鮮やかに脳裏によみがえる。午後、小学校低学年の子どもが二人、ランドセルを並べて、学校から家に向かって歩いている。普段なら、とりとめのないお喋りをしているのだが、その日は二人とも目の前に広げた本を読みながら歩いているのである。学校の図書館から借りてきた本を一刻も早く読みたくてしかたがなかったのだろう。今ならとてもおすすめできないが、東京とは言え、当時は車の数も少なく、緑濃い郊外の通学路からは、ざりがにのいる小川なんかも見える、のどかな環境だった。

子どもの私を夢中にさせる本は、図書館の書棚にいくらかでもあった。今でもよく覚えているものには、壺井栄『二十四の瞳』、井上靖『しろばんば』などがある。石井桃子『ノンちゃん雲に乗る』は父の書棚で見つけ、愛読書となった。読者の私は、登場する子どもたちの心情を自分のものとして追体験することができた。

海外の児童文学にも優れた翻訳を通して接した。トラヴァースの『メアリー・ポピンズ』シリーズ、バーネット夫人の『秘密の花園』、ジュール・ベルヌの『十五少年漂流記』、ケストナーの『ふたりのロッテ』。英仏独の原語は日本語とは構造も語彙の発想も異なるものなのに、その翻訳には不自然さがなく、楽しく読むことができた。後に大人の文学を翻訳で読むようになったとき感じた違和感、日本語との隔たりにぶつかることもなかった。こうした翻訳の日本語もまた、子どもの私の日本語の骨格を形づくるものだったのだと思う。

大人になり、修士課程修了後、海外で教えたり勉強したりし始めた私にとって、国会図書館と日本の母校の図書館とは、一時帰国中に存分に利用できる貴重な「私の日本の図書館」となった。国会図書館は、一度に3冊まで閉架式の書庫から持ってきてもらい、その後、複写を依頼するので、待ち時間が長かった。だが、ほかで手に入らない参考文献もここでなら見つかるので、暑い夏の日も精力的に通ったものである。

1990年代後半から2000年代初めにかけて、英国の大学で日本語教育に携わると同時に、大学院で言語学を学んだ。日本語を教えた大学は、ロンドン大学SOASといって、アジア・アフリカ・中近東研究で知られている。図書館はイングランド高等教育機関における五大研究図書館のひとつで、約120万冊の蔵書を有していた。その図書館について、1995年から2019年まで日本・コリア担当の専門職司書を務められていた小林富士子さんが書かれたレポートⁱと、直接伺ったお話、ガーディアン紙の記事をもとに、どのような特色があったか、振り返ってみたい。

SOAS図書館の日本関連の蔵書には、13世紀の古今和歌集写本や17世紀の朝鮮通信使行列図巻などの貴重書が含まれる。また、幕末の英国外交官アーネスト・サトーや、明治初期日本滞在中に膨大な数の絵画を収集し、日本美術紹介に尽力した英国人医師ウィリアム・アンダーソンの蔵書印が押された江戸版本などもあった。稀覯書コレクション「ビルマ作戦記念文庫」は出版された書籍だけでなく、個人の日記や書簡なども含んでおり、第二次世界大戦に

ついて調べる際に役立つ資料が多く含まれている。なお、このコレクションをまとめた「ビルマ作戦有志の会（現ビルマ作戦協会）」は、戦った日本との和解活動が続け、同様の資料館を山形県庄内町に開く準備を進めているという（2024年3月16日付け日経新聞）。

こうした蔵書を管理し、コレクションを構築し、学内外の学生や研究者の研究の相談に乗るために重要な役割を果たしていたのが地域・専門分野を担当する専門職司書である。学術関連スタッフとして月例の図書館運営会議に参加していた。1995年当時、7地域（日本・コリア、中国、アフリカ、古代中近東・ユダヤ学、中近東、東南アジア、南アジア）と2専門分野（美術、人文・社会科学）に配置されていた。

ところが、一度、この体制が危機に陥ったことがある。私が日本に帰国後の2005年、構造改革の一環として4人の専門職司書を一般職員に置き換える案が大学から示されたのである。その中には、日本・コリアと中国も含まれていた。この案からは、言葉がある程度できれば、その仕事は誰にでも務まるという考え方が窺える。これに対し、SOAS図書館の価値は出版界を熟知し、コレクションを築き上げてきた専門職司書によって支えられているのだとする教員たちが声を上げ、18人が学部長、センター長などの役職を辞職することによって抗議の意を示した。同時に世界の主要な研究者から批判が起こり、国際交流基金は懸念を示した。大学教員組合と大学との5ヶ月間の交渉の末、この解雇案は撤回された。それを聞いて本当にうれしかったことを思い出す。

予算削減が問題になるのは大学図書館ばかりではなかった。在英当時、指導教授宅で出会った大英図書館勤務の女性が「図書館も自分たちで稼ぐことを考えろって言われるんだけれどね。博物館なら、まだ見せるものが色々あるでしょうけど」と嘆いていたものである。

さて、再び学生となった私の博論のテーマは、私たちが言語を読んだり聞いたりするとき、止まることなく線状に続く音や文字の連なりをどのようにして構文として組み立て、伝えられた意味を理解していくのかということだった。英語の理論で日本語の特定の現象が説明できるかという挑戦でもあった。古語の例文を集める際、紙の本も使ったが、検索しやすいのは、何と言っても電子化されたテキストだった。

現在のように整備された日本語のコーパスは、まだ私の手の届くところになかったが、当時、アメリカのヴァージニア大学図書館がJapanese Text Initiative のプロジェクトを進行中で、オンライン・データベースを提供していた。古典のテキストを時空を超えて読み、花の蜜を集める蜂のように必要な例文を探し当て、抽出し、蓄積していった。

当時、雑誌論文の電子化は、まだ進んでいなかった。幸い、SOAS以外のロンドン大学各カレッジの図書館にも登録できたので、異なる図書館で異なる雑誌の論文を集めて回った。だが、それだけでなく、仕事や勉強の合間を縫って、そのどちらとも関係のない映画ビデオや音楽CDを借りて楽しみ、博論の長丁場を乗り切った。

私がここ数年関心を持って調べていることのひとつに、日本語の漢字音の変化がある。日本語教育での教材作成を通じて、過去の日本語で一般的だった字音が現在のものとはかなり異なることに気づいた。例えば、「睡眠」は、『文明本節用集』と呼ばれる室町時代の辞書には「すいめん」と出ている。また、同じ辞書で「遺物」は「ゆいもつ」、「発言」は「ほつごん」となっている。では、一体いつごろ、どのような経過を経て変わっていったのだろうか。

そこで、室町時代から近代にかけて編集された辞書を頼りに、字音の変化の跡をたどっていく作業を始めた。この期間、日本には数多くの辞書がある。一部の辞書には詳細な先行研究があり、影印本（写真版の複製）や索引も作られているが、そうでない辞書も多い。また、影印本や索引があっても、必ずしも所属大学の図書館に所蔵されているわけではない。その隙間を埋めてくれるのがオリジナルの辞書が画像で見られる図書館のサービスだった。国立国会図書館のデジタルコレクションは、著作権保護期間が満了しているものはオンライン上で公開され、誰でも閲覧することができる。また、国文学研究資料館や個別の大学所蔵の辞書の画像も同様に公開されているものが少なくない。辞書画像もパブリック・ドメインとなっていれば、自由に利用できる。

実は、近代以前の国語辞書は、見出し項目が50音順やいろは順に並んでいるわけではなく、頭字のいろは順と意義分類との組合せになっていることが多い。そのため、目的の見出し語にたどりつくには恐ろしく手間がかかる。だが、時間をかけてついに見つけたときは、まるで宝物でも探し当てたような気持ちになる。

本学で教え始めて4年目になる。担当している授業で参考文献としている図書は、ほぼ図書館にそろえることができた。図書館へ行くたび、司書や職員の方たちが親切に接してくださり、心が和む。

日本では、学術雑誌と一般書の電子化が着実に進んでいるのに比べ、学術書はその動きがゆっくりであるように感じる。インターライブラリー・ローンの恩恵を受けることもしばしばであるが、電子書籍が増えてくれれば助かるなあと思うこのごろである。

¹ 小林富士子(2014)「ロンドン大学SOAS図書館—サブジェクト・ライブラリアンの役割」『アジア研ワールド・トレンド』日本貿易振興機構アジア経済研究所。 <https://ir.ide.go.jp/records/45436>

『個別最適な学びと協働的な学び』

奈須正裕著 東洋館出版社 2021.12.25 (375.1/ナス 1F 子ども・教育保育)

今年度よりお世話になっている大谷（おおや）と申します。長年、小学校教員として勤務し、終盤の9年間は校長として学校で仕事をしました。

最後の4年間は天童市立天童中部小学校（以下、天中小）に勤務しました。本書は、その期間の学校創りの様子を上智大学の奈須正裕先生がおまとめになったものです。奈須先生とは同じ年齢で、20年以上ご指導いただきました。天中小に赴任するに当たって、「校長として最後の勤務校になると思う。これまでの総まとめとして、子どもたちにとって本当に居心地がいい学校創りをしたい」と奈須先生にこれまで以上の指導をお願いしました。

では、本書の内容を三つのポイントに絞って紹介します。

①学校教育の今後の方向性

現在そして今後の学校教育を考える際のキーワードの一つとして「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」があります。根底を支えるのは「子どもはもともと有能な学び手である」という子どもへの信頼です。信頼があるからこそ、子どもの自由度を高め、子どもが自分の時間やペース、好きな場所等で学ぶことを支えることができます。逆に子どもへの信頼がなければ、教師が教え込まなければ子どもは学ばないという考え方になり、管理や強制が幅を利かせます。本書には、自学・自習、単元内自由進度学習、個人総合・探究等、表面的な学習形態としては様々なものが登場しますが、共通しているのは子どもへの信頼です。

②教職員が協働する学校創り

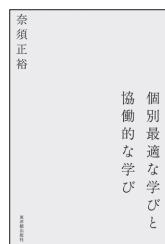
学校教育の柱は授業であり、目の前の子どもに合った授業作りを考えることの大切さは揺らぎません。ただし、1時間の授業に注目するあまり、単元全体で子どもが育っていることを見失えば、「木を見て森を見ず」となり、結果的に子どもの学びへの意欲を阻害することもあります。

また、一つの授業は学校生活の一部であり、授業をするのは一人の教師であっても、それを支えているのは学校のすべての教職員です。例えば、事務職員は学習環境作りに適切に経費を使い授業を支えます。給食パートの方の発した一言が、その子どものくらしに影響を及ぼすこともあります。同僚性を高めることが、皆で子どもを育てているという教職員の矜持に結びつきます。

③若手教員が活躍する学校

いい学校か否かは若手教員がどれだけ自分らしくのびのびと仕事をしているかにかかっています。本書の最後には、天中小に勤務していた4名の当時の若手教員へのインタビューが掲載されています。読み返すと、一緒に仕事をさせてもらった身としては感慨深いものがあります。各々が堂々と答えていますが、それまでの道筋では悩んだり苦労したりして困難を懸命に乗り越えてきたのを知っているからです。

教師としての成長には、子ども・同僚・保護者・地域の方々など沢山の人との関わりが欠かせません。加えて、実践を支える本との出会いが大切です。ネット時代になっても読書の重要性は不変です。



図書館学生アルバイトの「私のおすすめ本」

人間関係学科1年 高嶋 美杏

『チーズはどこへ消えた?』

スペンサー・ジョンソン 著, 門田美鈴 訳 扶桑社 2000.11 (933/ジョ 2F 英文書架)

自分の人生に安定をもたらしてくれていたものが突然なくなってしまったらあなたは どうしますか。変化に対応してすぐに行動を起こす人もいれば、いつかはその安定が戻ってくると信じてじっと待つ人もいます。

この本は手に入れたら幸せになるものをチーズに、チーズを手に入れるまでの道のりを迷路に例え、二人の小人と二匹のネズミが迷路の中でチーズを探す話です。多くの人は変化を恐れて行動を起こせませんが、自分から行動を起こさなければ何も始まりません。恐怖を乗り越えた先にある沢山のチーズをイメージして変化に対応すること、周囲の変化に敏感であることなど私たちが生きていく上で大切なことが短くシンプルなストーリーにまとめられています。「自分の人生は自分しか変えられない」を基に、見逃しがちな考え方に気づくきっかけを与えてくれるため、変化の分岐点に立っている方や自分の思考や生き方を見つめ直したいという方にぜひ読んでいただきたい一冊です。



上記の図書は図書館で所蔵しています。ぜひご利用ください。

令和5年度 図書館報告

資料の構成

(令和6年3月31日現在)

1. 図 書	蔵書数	129,085冊
	年間受入冊数	460冊
2. 雑 誌	所蔵雑誌 種数	257種 (内国誌 213種, 外国誌 44種)
	年間受入雑誌 種数	99種 (内国誌 90種, 外国誌 9種)
3. その他	新聞 種数	11種 (内国誌 7種, 外国誌 4種)
	視聴覚資料 所蔵数	1,535点
	データベース	Academic Search Elite, PsycINFO, 医中誌web, MAGAZINE PLUS, 国立国会図書館デジタル化資料サービス, 朝日新聞クロスサーチ, 河北新報データベース, 山形新聞記事データベース

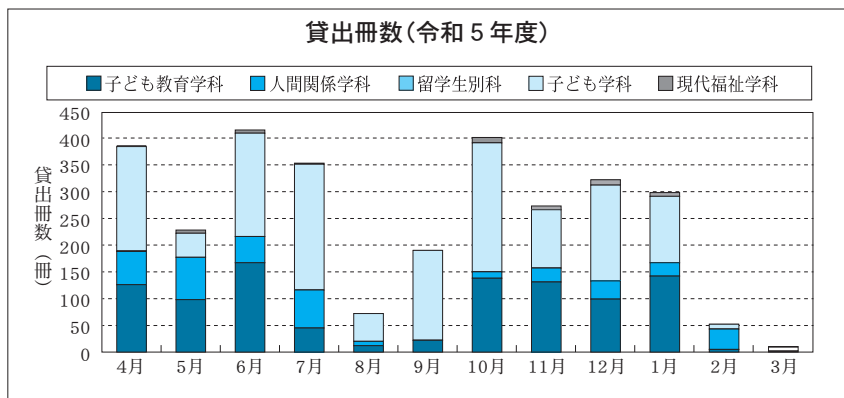
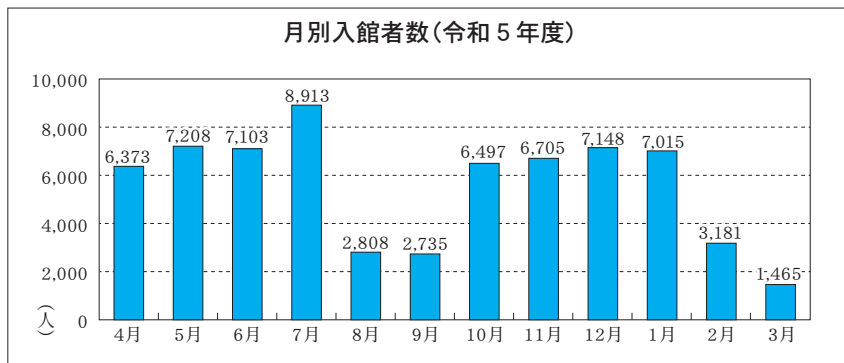
利用状況

- 開館日数 237日
(参考: 令和4年度 247日)
- 入館状況
 - 月別入館状況
入館者数(延べ数) 67,151人
 - 一日平均入館者数 283人
- 館外貸出状況
 - 学科・月別館外貸出冊数
年間貸出冊数 2,998冊

(参考: 令和4年度 3,490冊
: 令和3年度 3,215冊)

- 一人当たりの年間貸出冊数推移
参 考

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
子ども教育学科	3冊 (3.171…)	4冊	4冊
人間関係学科	3冊 (2.956…)	3冊	3冊
留学生別科	0冊	0冊	0冊
子ども学科	6冊 (5.543…)	10冊	8冊
現代福祉学科	1冊 (0.535…)	1冊	2冊
本学平均	3冊 (3.466…)	5冊	5冊



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子ども教育学科	126	98	167	45	12	22	138	131	99	142	5	2	987
人間関係学科	62	79	49	71	8	0	12	26	34	25	38	8	412
留学生別科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
子ども学科	195	45	193	235	52	168	241	109	179	124	9	0	1,550
現代福祉学科	0	6	6	2	0	0	10	7	10	7	0	0	48
計	384	228	415	353	72	190	401	273	322	298	52	10	2,998

サービス提供状況

- 相互協力業務
(他大学から文献取り寄せ・または提供する件数)
図書借受冊数 2冊
(参考: 令和4年度 11冊)
図書貸出冊数 4冊
(参考: 令和4年度 8冊)
複写取寄件数 30件
(参考: 令和4年度 51件)
複写提供件数 1件
(参考: 令和4年度 0件)
- 学内文献複写 複写枚数 836枚
(参考: 令和4年度 586枚)
- 学内参考業務 受付件数 163件
(参考: 令和4年度 78件)
- 貸出ノートPC 貸出件数 502件
(参考: 令和4年度 784件)

令和5年度 新型コロナウイルス感染症対策の取り組み

- 開館状況
(通 常) 平日 8:30~18:00
(授 業 日) 土曜 8:30~17:00
- 館内の感染対策
 - 館内の換気
 - 入口への消毒液の設置、カウンターへ飛沫防止対策板の設置

〔令和5年度より開館時間を戻し、学外者の利用も再開する。〕
〔なお、館内の感染対策は、必要に応じて実施していく。〕